東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

Vol. 7, No. 2 (No.19) 1972. 10. 20

読みたい本のない時 2
ぷらざ で りぶろ 3
投書解答 5
アンケート結果 6
文献調査法 7

所蔵目録の作成について

——所蔵目録作成小委員会——

年間，約２万冊余（和漢洋共）の図書を受入れてきた私達の図書館は，都内でもほぼ中堅の役割をはたすようになりました。

蔵書構成のバラつき，継続刊行物に欠号が目立つなど，補充すべき分野のいくつかの作業は残されているとしても，既存の資料を検索するにたる総合的な手段はととのえなければなりません。

私達は，閲覧用，事務用に各々複数でカード目録を組織しております。また，年間の増加図書については，増加図書目録（冊子）として昭和24年以降刊行してきました。この目録は館外にも広く配布され図書の利用率を高めるのに役立ってきました。

残念なことに，第４号刊行後数年の空白期間をおいたため，そのおくれが，第５号刊行後も解消出来ないでおります。

今般，全所蔵目録の編纂にとりかかったのは新図書館の竣功記念ではありますが，知的財産の総目録として，また総合的な検索トゥールとしてこの欠落部分をうめるものです。

館長提案，担当課長折衝の結果，この企画は全面的に承認され，すでに第１期の作業に着手しています。総予算3,500万円，３ヶ年計画で全７冊（索引共）の予定です。

収録期間は昭年46年３月31日受入分までの全期間の図書で，逐次刊行物をふくむか否かは検討中です。

原稿は，富士ゼロックスの東京システムセンターの担当で８月11日から着手，書架目録を典拠として ①カード調整，②ナンバー打ち，③フイルム撮影が，３週間をかけて終了しました。

今後共，業務は図書館整理課の所属長以下担当個所からの選出委員による小委員会ですすめることになりますが，まだ着手したばかりですので，今後編集にあたっては広く御意見御提案をおよせ下さるよう願っております。

新館長に大島建彦教授（文学部）就任

岡田館長の任期満了にともない，９月１日付で文学部国文学科大島建彦教授が新しく館長に就任されました。任期は２年です。

大島先生は，国文学および民俗学を専攻されて，多数の著書，論文があります。学位論文は「民間文芸史の研究」。

図書館に本がない！？

図書館を利用している皆さんの中には辞書体目録・分類目録から読みたい図書を探し，「あるはず」だと思い請求したのに目的のものがみつからないというようなことに出会ったことがあると思いますが，それは次のような事情によるものです。

①館外貸出中（学生・教職員）
②47年３月以前に紛失した図書
③研究室貸出中
④長期未返却
⑤複写で使用中
⑥製本及び修理中
⑦館内閲覧中

これを説明しますと，①館外貸出中の場合は返却日を待って予約するシステムがありますので遠慮せず係員に申込んで下さい。
②紛失が明らかなものについては，紛失リストに記載し利用頻度，出版状況，図書購入予算等と見合せて漸次購入しています。
③研究室貸出しは近年はしておりません。以前に貸出ししたものです。
④長期未返却とは貸出しを受けて長期間返却されていない図書のことで，利用頻度の高いものについては購入しています。
⑤複写には１日から２日を要します。
⑥破損のひどい図書，雑誌，紀要類等は製本，修理に出すので多少の日数を要します。
⑦館内閲覧中の場合はカウンターで図書の内容までチェックしていませんので明確な点では分かりかねます。

以上あげた理由に該当しない所在不明図書については，時間をかけて追跡調査をしますが，それでも所在が全くつかめないものについては紛失図書扱いとし，その後の処理は②で述べた通りです。また開架と閉架では手続きが少し違いますので目的の図書が見つからない場合の注意について述べます。

閉架は係員が請求票によって図書にあたるので問題はありませんが，開架は利用者が直接書架にあたるわけですから，もしその時に所定の位置に図書が見あたらなかった場合でも決して諦めないで係員に相談して下さい。その図書がどこにどういうかたちで所在しているのか，可能な限りお答えします。

なお図書館の蔵書には入っていないけれどぜひ購入して欲しい図書の場合は，その図書が現在入手可能な限り，学生購入希望図書として優先的に購入するシステムがありますので係員に相談して下さい。

洋雑誌のコンテンツシートによるサービス始める（工学部）

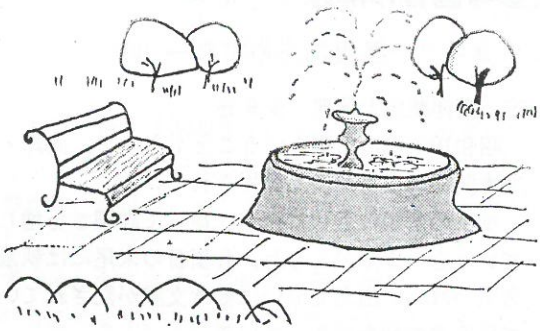
学生の方より要望があり，洋雑誌のコンテンツシートを作り始めたのが５月頃でした。閲覧業務の片手間に作っていたため，だいぶ時間がかかってしまいましたが，夏休みも終りの頃になってどうやら使用できるようになりました。

今は教員閲覧室においてあります。学科ごとに色別にわけて見やすいように作りましたが，まだ不備な点が多いと思います。少しでも使いやすいコンテンツシートにするため，使った方は御意見をお聞かせ下さい。

行事予定（９～12月）

９月４日　Rand Africans University（南ア）図書館長 H. O. Zastrau 氏来館
９月11～13日　国文学研究室の協力を得て，研究室設置の本館所蔵図書の照合を実施（一部）
９月20日　私大図書館協会「事務能率分科会」
９月22日　新旧館長事務引継
９月30日　私大図書館協会「書誌学分科会」
11月４日　哲学堂例祭
11月22～27日　白山祭
11月29日～12月１日　全国図書館大会　於千葉市
12月18日　冬季休暇開始

ぷらざ でりぶろ



京極 純一著

「現代民主政と政治学」

岩 波 書 店

種まきのマークがついたこの350頁の本は，一見，大学の教科書みたいでもあり，敬遠されるというか，見すごされるような姿をもっている。しかし，民主○○とか○○政治などと，今ではすっかり感じとしてはなじんでしまったものを見つめなおすという観点では，具体的でゆきとどいた内容のすぐれた本である。

構成は，「法学セミナー」とか「婦人公論」などにのった23論文の再録で①現代政治学について，②選挙の政治学，③日本の民主主義，④日本の学問と教育の四項目にまとめられた評論風のもの。

終戦後のドサクサに育った私達は民主主義を知らない教師に民主主義をならった。理路整然と語りながら指導要領をはなれられない教師，ワンマンで亭主かんばくで，平気でなぐる教師，私達はこのあぜんたる人物に学びながら，しかし教師もまた学んでいたとおもう。私達はお互いに成長し今日にいたったようにおもう。巷で論争や闘いがたえないのはまして，日々強くなっているのはその証拠ではないか。

ただ気になるのは，私達の理解である。民主主義多数決の単純さでなにか忘れてはいないか，サークルや職場が，旧態依然たる村人と同じではないか。

名のみがゆきわたって，その実体がまだ，はるかであることを，私達のなすべきことがまだあると同時に問いなおすべきであることを，この本は教えてくれたと思う。(A)

請求記号 311：KJ-2：2

石橋 多聞著

「飲み水の危機」

東京大学出版会

わが国における上水道の普及率（人口比率）は，昭和45年度末で81%に達し，ようやく欧米の水準に迫った。その水源としては，取水量でみると，河川表流水が68%を占めて圧倒的に多い。結局，わが国では，ほとんどの人が飲用水を上水道に頼り，かつその源は大部分が河川表流水であると考えてよいようである。

古来，わが国は山紫水明をうたわれ，また多雨国で水資源も豊富であるといわれてきた。しかし近年，“公害先進国”日本では河川の水質汚濁は世界に冠たるものとなり果てて，河清をまつのは容易でなく，水資源開発も先行性の欠如から，将来にわたって不安は消えそうもないのが現実の姿である。

上水道の備えるべき要件としては，質量両面の安定確保が常時行われることにつきるのである。ところが，上水道水は生活の近代化と都市の発展に伴ない需要が急速に伸び，供給がそれに追いつかないため，今夏の東京をはじめ，毎年どこかで水不足騒ぎを起している。また，水源汚濁の激化は，上水道の浄化を困難かつ高価なものにし，ついには浄化技術の限界をこえようとしている。さらに，未知の有害物質混入の不安が拭いきれず，長期にわたり取水を停止した浄水場も出てきた。現在はまさに，「飲み水の危機」に直面しているのである。

この著書は，上水道水源としての河川の量的，質的劣悪化の現状とそれが上水道に及ぼす影響，問題点，対策，今後の展望などを，内外にわたる豊富な実例と資料をもとにして述べ，国民に水問題の再認識を訴えることを意図している。

絶えず水不足におびやかされ，下水に近い水を飲まされている国民としては，ことが直接生活と保健につながるものだけに，水問題には大きな関心をもたざるをえないが，この広範な問題のポイントを適確にはあくするのに格好の書であると思う。（工学部土木工学科　扇田彦一）

請求記号 498.43：IT

斉藤 真一著

「瞽女—盲目の旅芸人—」

日本放送出版協会

瞽女，このはじめて目にする文字にひかれて本を開いてみた。と同時に百科事典をひいてみたら，およそ次のように説明されていた。——瞽女＝三味線をひいて歌をうたって渡世する盲女をいう。祈禱や遊芸にしたがう盲女は古くからおり，口寄せ，梓座女，いたこなどと呼ばれていたが，この瞽女とは室町時代以後あらわれ宗教から離れて遊芸者にかわった者をさす。多くは数人をうちつれて村々をめぐり門弾をして，瞽女唄や流行歌を唄い語りものを語った。甲府，駿河，越後には瞽女屋敷があり，そこに集って住んでいた。団体を組織し頭がそれを統率しているものもあり，仲間の掟は相当に厳しく，不行跡の者は処罰された。今日もなお，娯楽の乏しい農村ではまだその需要を保っており，時を定めて各地を遊芸している。——

ねぶた祭りの夜，津軽を訪れた著者は，聞えてくる三味線の音階に強く心ひかれた。この三味線の音階は，越後や越中から来た瞽女がひろめたものだという。これが著者と瞽女との出合いであった。ここから著者の瞽女を訪ねての旅がはじまるのである。

著者は画家である。瞽女を画くための裏付けとして集めた資料，記録をまとめたのがこの本である。現存する高田瞽女杉本キクエさんの生活と生涯，彼女達が唄う瞽女唄，彼女達が歩いた行程を追う著者の記録，瞽女の歴史，又瞽女唄と民謡との関係についての考察などをまとめてある。

瞽女を知り，画こうとする著者の並々ならぬ情念が息づいている著作である。そしてこの中からは，歴史の裏側で息づいてきた人間の息吹が深く感じられるのである。(S)

請求記号 384.3：SS

参考図書の解題

—歴史関係の事典— (2)

① 東洋歴史大辞典 全9巻

昭和10年代の出版ということもあって，満洲・蒙古関係の項目が多く採用されている。

項目の解説は近代に至るに従って詳細さを増していくという形がとられ，各項目の末尾には執筆者名のほかに出典名或いは参考文献が記されていて研究者の便をはかっている。

全9巻のうち第9巻は補遺及び総索引篇で索引については漢字索引，片仮名索引，欧文索引のほかに中国人名及び地名の現代音索引からなっている。 (平凡社 請求記号 220.03：T)

② アジア歴史辞典 全10巻

第2次世界大戦の終結によってもたらされたアジアの夜明け，即ち新時代の訪れを映してアジアに密接するアフリカが重視され，これまで比重のうすかった東南アジア・西アジアに比重がかけられている。

又東西交渉史，文化史の充実がはかられている。各項目の末尾に執筆者名及び参考文献が記されているのは東洋歴史大辞典の場合と同様の趣旨によるものである。

第10巻が索引頁で漢字索引，カナ索引，ローマ字索引，系図索引からなっている。

また第9巻末にアジア紀年表などの参考表（62p）があり，図版や地図の豊富さとあいまってアジア関係の辞典では最も標準的な位置をえているといえよう。 (平凡社 請求記号 220.03：A)

—工学部分館関係— (1)

◇ 原子力年鑑 1972年版

これは昭和32年創刊以来今回で第14冊を数えることになった。この年鑑は急速に発展している原子力開発の時代にあって，日本と世界とにまたがって，刻々と変りゆく状況をとらえ，その問題点を伝えると云う重要な役目を果して来た。原子力の研究とその産業への応用と云う幅広い視野から，学会，大学研究室，研究所，産業界の動向を知る上でも便利である。昨年は「原子力を人類の利益のために」と云うテーマで第4回原子力平和

（7ページへつづく）

騒音問題の解決へむけて努力中

関係サークルのご協力とご意見を!!

投書箱から

6月以降，「図書館ニュースについてのアンケート」第4項に記入されたものを含め，31人の諸君から，各分野にわたる多数の意見，要望を得ました。係ではその一つ一つについて慎重に検討をすすめ，中にはすでに解決実現させてもらったものもあります。今回はこの投書の中から，もっとも要望の多かった図書館の環境改善の問題についてとりあげ，考えてみたいと思います。

音楽練習場および図書館附近での音楽の練習音について（5件）―その他口頭での苦情多数―

まず，この投書の一つを原文のまま全文掲載させてもらいます。

図書館の真下で音楽の練習をしている者達を早急に追い出すことを要求する。真剣に勉学にはげんでいるものにとって，あれ程，耳ざわりな音はない。

図書館という大学の象徴の下で，あのような雑音を発生させていたのでは，東洋大の真の姿を社会に誤って伝えることにもなる。

もちろん彼らにも練習する自由はある。だが，正当に練習できるところでやってもらいたい。彼らも良識ある人間であると信じているので，すみやかに話し合いによって，図書館のまわり，いや，最低，真下からでも雑音を追放してもらいたい。

他の3件もほゞ上記のものと同じです。この「図書館ニュース」（第17号）でも，本件にちょっと触れて，「解決の非常にむづかしい問題ですが，関係部課と話し合いをおこなっています」との回答をいたしています。

図書館の私どもも，この投書の諸君とまったく同意見です。この基本的な考え方にたって，上記の努力を続けているわけです。関係部課の中で本件ともっとも密接な関係のある学生部に，館長よりつぎのような要望書を提出し，協力を求めると同時に解決のための話し合いを継続しています。

要望書

図書館前の音楽練習場の音が，図書館の閲覧室等に反響して，図書館の運営に重大な支障を来しております。また最近練習場からはみ出た学生が一階ピロティー，階段を利用して練習している有様で，これも図書館の運営，良好な環境維持に支障を来しております。この状態はほゞ一日中継続し，本件に関する利用者の苦情が急激に増加し，対策に苦慮いたしております。本状況をご賢察の上，至急善処方お願い申し上げます。

学生部の方でも，この練習音問題は私どもの申入れだけでなく，授業担当者，聴講者からも苦情を持ち込まれ，音楽練習の学生諸君への自粛の協力を求め，解決策を模索しているとのことです。したがって図書館の要望事項は全面的に了解し，さらに音楽練習の諸君へ話し合いをすすめてみる。しかし本件は基本的にはキャンパスの狭隘さに起因した問題なので，早急には解決がむづかしい。過去の経緯もあって，学生会館建設問題の中で包括的に取扱う以外に根本的解決はありえないように思える。さしあたり練習場の移転や現練習場を改造して防音装置をつけるといったことが考えられるがこれも学生部だけでは処理できない。

以上が学生部の見解です。これをもとにさらに本件を学生部，教務部，管財部，図書館の4者で協議すること，ピロティー内（図書館真下）での練習は図書館の方で禁止し，これに学生部は協力することの2点を決め，現在後者は休暇明けを機会に実施，前者はその準備をすすめています。

また学内の施設，設備を担当する管財部へも，現状を報告し研究方を依頼しています。

こゝで音楽練習場およびその周辺を使用して音楽練習をするサークルの諸君にも，この機会につぎのような要望をいたします。

既設の練習場の問題を放置して，現在位置に図書館を建設したことの経緯には種々問題はあると思います。しかし事ここにいたっては，単に過去の経緯のみにこだわっていては，問題は解決しないし，諸君も現状でよいと考えてはいないと思います。そして諸君も図書館利用者の1人のはずです。図書館の意義と利用者の立場をふまえて，現時点で音楽練習は如何にあるべきか，音楽練習場の形態はどのようなものが望ましいかを，諸君の側からも主体的に考えて意志表示してほしく思います。もちろん私どもも前段で述べたように私どもの立場で，本件解決のための努力をしていますし，今後も続けていく決意です。

「図書館ニュース」へのアンケートから

前号で『『図書館ニュース』についてのご意見を！」という見出しで，利用者の皆様にアンケートをお願いしましたが，８月３日現在で21件の回収を得ました。この結果を要約し，あわせて，これに対する回答及び見解を示しておきます。

総じて，アンケートに協力された人が少なくて残念でしたが，出された意見や要望は貴重なものが多くて，今後の紙面の充実のために大いに参考にしたいと思います。アンケートに協力された方々に深く感謝致します。

なお，図書館全体にかかわる要望等については別頁（５ｐ）で回答しています。また，規定の用紙でなくても結構ですから随時，要望やご意見，企画・カットなどをお寄せください。

× × ×

「投書欄」「ぷらざ で りぶろ」などの充実を

1. この号の記事の中で一番興味深いものに○をつけてください。

①指定図書＝２人 ②分館の複写機＝０人 ③オリエンテーション＝２人 ④予算＝４人 ⑤参考図書の解題＝０人 ⑥ぷらざ で りぶろ＝１人 ⑦統計＝７人 ⑧共同研究室＝１人 ⑨図書館白書＝１人 ⑩投書＝６人 ⑩その他(記事という名に値せず)

この項目は次の項目と関連がありますからそこで取扱います。

2. 今後どのような記事を望みますか。

㋑上記１の設問で「投書欄」が好評だったことに関連して，次のような要望がありました。それは，図書館の設備，運営等に関して，利用者の意見・要望を掲載する頁を充実してほしい。また，その際，それにかかわってこれまでのように図書館側の回答を行うことも含めて，図書館側から利用者への要望等を掲載し図書館と利用者の相互交流の頁にしてほしいというものです（４件)。

編集委員としては，この要望にそうようにこれまでも努力してきたつもりですが，これからもなおいっそう充実させたいと思っています。

㋺「ぷらざ で りぶろ」という見出しで書評的な頁を設けていますが，この頁の充実を望む声が３件ありました。また，書評で扱った本を検索しやすいよう配慮せよとの要望もありました。これらについては，意に添うよう努めたいと思います。

その他，これに類する意見として新刊リスト（２件)，珍本の紹介(１件)，非体制的な本の紹介（１件)，蔵書目録(１件)，本館所蔵の叢書の解題（１件)，「私のすすめる本」(１件)などの掲載を望む声が寄せられました。これらの内，意味が十分に理解できないものや増頁しなければ扱いきれないものなどは，即座に要望におこたえすることができません。しかし，一，二，参考になる意見を漸次取りあげていきたいと思います。

㋩レファレンス・サービスに関わる記事としては，時事的な書誌をふくめ，主題書誌（たとえば“公害問題に関する本”“島崎藤村に関する本”など）（２件）やレファレンス・サービスの事例（１件）の掲載を望む声がありました。

これらは，前記㋺項と同様，頁数の関係でただちに要望にこたえられないのが残念です。なお，今号で，文献調査法の事例を掲載しましたので，上記のご意見の主旨が，多少でも生かされていれば幸いです。

㋥その他，統計に関して，分析を加えた解説．利用状況．読書感想文．本の歴史．当館の施設面の案内．当館の利用方法（卒業後も含めて)．学外の図書館の紹介．教員等のエッセイ（図書館に関係ないものでも)．騒音の問題等の記事を，という意見が寄せられました。

この中には，すでに，「図書館利用のしおり」「東洋大学報」などで掲載ずみのものがありますし，頁数の関係で扱いきれないものもあります。なお，騒音の問題は別頁で図書館側の回答を記しておきました。

3. 紙面構成や見出しのつけ方，カットなど技術面についてのご意見。

これに対しては，次のような意見が出されました。

見出しを工夫すべし．品のよいカットを．書評

の頁に本の写真を。目次がめだたない。余白が少なく全体に固い感じだ。小さな記事が乱立している。

これらの中で，今後の編集の参考になるものは十分とり入れることにします。さしあたり，今号を読んで，それらの意見が生かされているかどうかご判断下さい。

なお「コスモス」「ぷらざ　で　りぶろ」の意味はそれぞれ次のとおりです。

「Ko∑mo∑」……ギリシア語で宇宙，世界の意味です。

「Plaza de libro」スペイン語で「本の広場」という意味です。

4. その他，お気づきのことがありましたらご意見をどうぞ。

この設問に対して，次のような意見が寄せられました。

「ニュース」を目立つところにおけ．良質の紙を使わないで図書購入費へまわせ．カベ新聞を作り，学生の投書を公表せよ。

これらの意見をどう具体化するかは即座には回答できません。検討の上，後日，回答致します。

×　　×　　×

工学部分館では配布部数が少ないなど，諸々の事情でアンケートの回収ができなくて，ご意見をうかがうことができませんでしたが，後日なんらかの方法で補足していきたいと思います。

（図書館ニュース編集委員会）

（4ページよりつづく）

利用国際会議がジュネーブで開かれ，その会議を軸として国内，国外ともに大きな動きが見られた。また現今では原子力開発に伴う公害とその対策の問題も大きな課題となっている。それらの事柄が今回の版では浮きぼりにされている。原子力に携わる人は勿論のこと，原子力に関心をもつ人にとっても，この年鑑は参考書として役立つであろう。日本原子力産業会議編集発行

（請求記号 533.9059：G）

文献調査の手びき

“萩原朔太郎について”を例にとって．．．．

文献という言葉から，一般的には図書や論文が連想される場合が多いと思われるが，実際には図書・論文だけではなく，手書きや印刷又は写真術等を応用した記録類，文書，調書等も文献の一部であり，このような文献を大別して主に出版物の形態をとるものと記録物の形態をとるものにわかれるものと考えられる。

例えばベートベンによって手書きされた有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」のようなものから一般の手紙，事務用文書などに至るまで有名・無名を問わず，すべて文献と考えられるのである。しかしながら，大学のような研究・教育機関においては，このように多種多様な内容をもつ文献の中でも出版物が中心的に扱われていて，文献調査にあたる場合でも最も重要性を有しているといえるだろう。

もちろん記録類の調査を省略していいということではなく，時として記録類の中からも重要な研究が見いだされることがあり，全般的に調査の視野を広くもつことが要求されることもあって記録類が無視されえないのである。

このように文献調査は実際には幅広いものであり，予想以上の時間と労力を要するものであるが，ここでは図書館でレファレンス・サービスとして行なっている文献調査の実例をあげる形で調査の概要を述べることにしたい。

萩原朔太郎についての文献を集めたいというような場合，まずはじめに行なわなければならないことは朔太郎個人に関するものとして個人書誌，又近代詩に関するものとして文献目録，主題書誌，販売書誌の他，索引，抄録，研究入門，研究法，事典，便覧，年鑑，年表，年譜などが図書館に所蔵されているかどうかを確めることである。

即ち辞書体目録の＜萩原朔太郎＞の項目．＜近代詩＞の項目をひくと，個人書誌として「萩原朔太郎書誌」，“調査資料”として，「萩原朔太郎」（「日本文学研究資料叢書」），「萩原朔太郎」（「近代文学鑑賞講座」）があるが，近代詩に関するも

のでは書誌類が全くないことがわかる。分類目録の<911.5 新詩>の項目からも同じ結果が得られる。カードを引く場合単行本や叢書に内容注記のある場合は注意してみることが必要である。

次に図書館に所蔵していない書誌などを参考室所在の“調査資料索引”によって調査することになる。この索引はカード式で萩原朔太郎の場合は個人であるから個人用のカードをひくと，次のような資料が得られる。

①萩原朔太郎年譜，著者目録，研究案内（「現代日本文学大系」47）
②萩原朔太郎年譜（「日本の詩歌」14）
③萩原朔太郎年譜（「萩原朔太郎詩集」）
④萩原朔太郎年譜（「萩原朔太郎」：<日本詩人全集>）
⑤萩原朔太郎像〔年譜〕（雑誌「ユリイカ」4巻5号）

以上の5枚のカードは，それぞれ年譜等が部分資料として（　）内の図書中に含まれていることを意味している。このようにして，カードによって知ることのできるものが優先され，次の段階に移ることになる。

カードの検索に続いて，「国立国会図書館，雑誌記事索引」，「国語国文学研究文献目録」，「現代日本文学大事典」，「文学・哲学・史学・文献目録（日本学術会議編）」等の参考図書類から朔太郎関係の文献をひろいだす作業が待っている。

このようにして得られた図書や論文の中から参考文献リストを抽出することによって図書・論文数は飛躍的に増大していく。一方新聞記事の中から必要な記事を抽出するために新聞縮刷版の目次・索引，新聞記事索引等を利用する。

以上の手続で調査できない卒業論文等は，各大学に依頼して卒業論文リストをできるだけ入手するかあるいは電話で確認するといった手段をとることになる。

このほか各大学や民間の朔太郎研究機関，例えば前橋市立図書館にある萩原朔太郎研究会などの動向に留意しながら会報等を集めるといったことも必要である。こうして集まった文献は体系的にはまだばらばらの状態で一定の体系によって再編成されることが望ましい。

例えば文学のジャンル，年代順，文献の種類別というように体系化も個々の事例に即応した方法が考えられるべきであろう。

この方法は通常主題書誌を作成する場合にとられる最も幅広いもので，このような網羅的なものでなく，特定の領域に関するものに限られる場合は，いわゆる文献調査というべきもので，図書や論文のみの調査で終了することが多いものである。

文献調査は，習熟することによって研究や学習面で高い効果が得られるものと考えられるので，図書館を最も効果的に利用するといった観点から利用者自らの手で調査が行なわれ，図書館が援助するという関係が樹立されることが望ましいのである。

（参考係，島田記）

～～～～～～～～～～～～～～

随　想

図書館の資料に思う

応社　4年　神田全教

昨年新築された図書館。閲覧室がばらばらで不便であったが，今ではそんなこともなくなった。床もじゅうたんが敷かれ，靴の音もしなくなった。個人用の机もあり，静かに勉強できるようになった。

新図書館のよさを考えているわけであるが，図書館とは一体なんであろうか。本の倉庫ではない。なぜなら図書館の資料は利用されるためにあるのだから。本当か？　書架には古い本が，ほこりをかぶっているではないか。これでも利用されるためにあるのか。そうだ。いつかはきっと，利用されるという願いのもとに，書架といういすに座って，利用者を待っているのだ。

僕たちはこのように，利用されることを期待している資料を，利用すべきである。手続きがめんどうかもしれない。だが，それがなければもっとめんどうなのだ。手続きをめんどうがらずに利用すれば，図書館の資料は，利用者，みんなのものであると思っている。

編集後記

スペースのなさにまた悩みました。ご意見をお寄せ下さい。

東洋大学図書館ニュース　KO∑MO∑　Vol. 7, N0. 2（通巻19号）1972年10月20日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：大島建彦，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel (945) 7314番